

三月を明日にひかえ、雨に洗われた校庭の桜の枝も、こころなしか淡い桜色に色づき、春の訪れを待ちわびているようです。

このよき日。ここに、大阪府立桜塚高等学校、定時制の課程、第六十九回卒業証書授与式を、ご来賓、並びに 保護者や ご家族の皆さまをお迎えして、挙行できますことに、心からお礼申しあげます。

先ほど、今年度の卒業生二十一名に卒業証書を授与いたしました。保護者の皆さま、ご家族の皆さまには、卒業生の、晴れの姿をご覧になり、その喜びは、ひとしおのことと拝察いたします。本当におめでとうございます。

さて、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう。4月からは、新しい職場に勤める人、新しい学校に通う人、家庭で過ごされる人。それぞれの進路に進まれるわけですが、その門出にあたって、少しお話をします。

「ぼーっと生きてんじゃねえよ！」

この少し乱暴に聞こえることばが、最近のはやり言葉のようですが、私たちはつい毎日を同じことの繰り返しのように考えてしまい、何となく、それこそ、「ぼーっと」生きてしまいがちです。

「明日も今日と同じことの繰り返しかぁ・・・ つまらんなぁ」
そんなふうに思うことはありませんか？

けれども、考えてみてください。あなたがお店の店員さんとして、お客さまに商品を渡すとき、「ありがとうございました」と笑顔で声をかけるとします。あなたにとっては、毎日同じことを繰り返していると感じるかもしれませんが、お客さまにとってはどうでしょう。その笑顔にほっこりする人が、きっといるはずですよ。あなたの笑顔にほっこりした人は、きっと、その気持ちを今度は自分の周りに広げていこうとするはずですよ。

私たちは、自分の人生が自分だけのもの、自分だけで完結するものだと思いがちです。けれども、それは違います。

私たちの人生は、たくさんの人の影響を受け、自分自身もたくさんの人に影響を与えてつながっているものなのです。これは、私たちの「仕事」にも通じることです。

たとえば、皆さんが毎日、何気なく使っているスマートフォン。これが、たとえ30分でもつながらなければ、たいへんなことになります。スマートフォンがいつでも24時間ちゃんとつながるのは、複雑なシステムを支えてくれるたくさんの人が、私たちの知らないところで毎日働いているからです。

このように、私たちは仕事を通じて、知らない間にたくさんの人々とつながり、気付かないうちにお互いを支え合っているのです。

私がこのことを強く感じたのは、昨年9月に台風21号が大阪を襲った時でした。あの日の夜、いつも通る岡町商店街は、停電のために、自分の足元さえ見えないほどに真っ暗でした。その暗闇を抜けて、灯りがともっている岡町駅を見たときは、本当に心の底からほっとしたものです。阪急の社員さんが、復旧のため一所懸命作業をしてくれたのです。おそらく、その社員さんに私が直接出会って、お礼を言うことは、一生ないでしょう。けれど、私はこのとき「ありがとう」という感謝の気持ちとともに、その顔も名前の知らない人々とつながっていること、支えられていることを感じました。

一人ひとりの人生や仕事は、とても小さなものです。けれど、それらがお互いにつながって、この大きな世界を作っているのです。この世界を動かしているのです。だから、この世界には、つまらない仕事やどうでもいい人生というものは、存在しないのです。

これは、いつも私が皆さんにお話することにもつながっています。そうです。「わたしたちは微力だけれど、無力ではない」。

私たち一人ひとりが持っている力は、とても小さなものです。けれど、けっしてゼロではありません。人と人がつながり合い、お互いに影響し、支え合う中で、小さな力は大きな力となり、世界を変えていく力になるのだ、というお話をいつも、皆さんにしてきました。

私たちは微力だけれど、無力ではない。

私たちには、世界を変える力がある。

どうか、このことばを、忘れないでください。そして、皆さんの半径1メートルの世界から変えていきましょう。家族、友だち、恋人、職場の同僚。だれでもいい。あなたが手を伸ばせば触れることのできる、身近な人をどうか大切にしてください。

どんな人にも、その人の人生があり、生活があり、心があります。「当たり前だ」とみなさんは思うかもしれませんが、でも、その当たり前のことを、悲しいけれど、人はすぐに忘れてしまうのです。

この当たり前だけれど、大切なことを忘れた時、私たちはどれほど相手を傷つけ、悲しませることでしょうか。心ないことば、冷たい仕打ち。目の前の人に、それぞれの人生があり、生活があり、愛し愛される人がいる。そのことを分かっていたら、そんな振る舞いはできないでしょう。

皆さんが大切にした人は、その喜びを今度は自分の周りに広げていこうとするはずです。そうすれば、池に投げた小石が起こす波紋がどんどん大きくなるように、小さな変化が大きな力となり、この世界をより良いものに変えていけるはずです。世界を変えていくために、特別な知識や財産は必要ありません。必要なことは、信じること。

一緒に、これからも信じていきましょう。私たちには、世界を変える力があるということを。

さて、私のお話もそろそろ終わりにさしかかりました。ここでいつものように、最後の宿題を皆さんに出しましょう。

そうそれは、「これからの人生で幸せになる」という宿題です。幸せといっても、それは人それぞれにその形は違います。どうか焦ることなく、ゆっくり、それぞれの幸せを見つけてください。皆さんが、この宿題を必ずやり遂げてくれることを、私たち教職員は固く信じています。

さあ、明日から新しい生活が始まります。

二十一人の卒業生の皆さん。今日まで夜桜の生徒でいてくれて、本当にありがとう。皆さんのこれからの人生に、幸多からんことを心から祈ります。

平成三十一年二月二十八日

大阪府立桜塚高等学校

准校長 門田 浩一